

横須賀市議会議員

# 長谷川 昇

## 市政報告



2019年4月～横須賀市議会議員三期目当選

所属会派:「よこすか未来会議」

事務所:〒238-0012 横須賀市安浦 2-33-1-102

TEL: 080-4383-1633 Fax: 046-854-9529

Mail: hasedon2@gmail.com

はせどんHP <http://hasedon.info/>

## 横須賀市議会 12月定例会報告

12月議会は、11月27日から12月14日までの18日間開催しました。一般会計補正予算については、3億7千万円増額で、主に新型コロナウイルスに関連した早急な対応を必要するものとして、①救急医療センターのインフルエンザ・新型コロナウイルスの患者の振り分け外来の設置費用、②中小企業支援の家賃負担(本市独自措置)、③市立2病院における新型コロナウイルス対応の病床確保に関する補助金、等が可決、成立しました。

また、「横須賀市議会事務局」を「横須賀市議会局」に変更する議員提出議案が可決しました。二元代表制の一翼を担う「議会」のサポート力を強化する意味を込め「事務局」から「議会局」へと名称変更及び組織強化をするものです。

常任委員会審議では、都市整備常任委員会において、新港埠頭のフェリーについて地域住民の代表者から、騒音対策などを求めた陳情が審査了承となりました。市議会も様々な課題について市当局に対しての改善を求めました。

### ★新港埠頭フェリー就航問題が難航!



新造船「はまゆう」号

2021年7月に横須賀港新港ふ頭—北九州港間で開設予定の新規フェリー航路を巡り、12月2日に開かれた都市整備常任委員会で、田中茂副市長が「地域の皆さんに心配を掛けていることをおわびしたい。丁寧に何度も説明する姿勢が足りなかったと反省している」と近隣住民への説明不足などについて謝罪しました。市は、近隣住民に対しては港運事業者ら

で構成する「横須賀港運協会」との話し合いがまとまってから詳細を説明する予定だったと釈明するとともに、今後は、住民側が求めている新港ふ頭周辺の土・日曜日の交通量調査や環境対策について、第三者による検証を実施し、結果が判明したものに順次内容を報告すると説明しました。近隣住民の皆さんとの説明会等を重ねながら、理解を深めていくこと、今後協議会等を作って住民の要望や課題を整理しながら丁寧にすすめることが必要です。



# ★議員発議で、様々な課題を「政策」に！

横須賀市議会は政策検討協議会に取り組んでいます。横須賀市の課題を各会派及び議員から政策検討会議等に提案、論議し、市民の皆さんの抱えている課題を政策にして行きます。

## ○犯罪被害者等基本条例協議会で審議しています。

犯罪被害者等の本人又は家族への援助や相談窓口の設置、また市民の皆さんへの理解や配慮を求めると共に、二次被害や再被害を起こさないために横須賀市として条例の制定に向かって論議を進めています。長谷川昇はこの協議会の副委員長として、委員会での論点整理や議事進行を担い、市民にとって実効性のある条例となるように向けて取り組んでいます。

## ○子どもの権利に関する協議会が設置されます。



子どもの権利条約は1980年に国連で批准され、日本も参加しています。子どもが虐待を受けたり、差別や偏見にさらされたりしないこと。食事や衛生面など十分な環境が保障されること。子どもが意見を表明できること、等の権利があります。県内では川崎市が子どもの権利条例を制定しています。近年、幼い子どもに対しての虐待が問題になっていることから、虐待に関しての対応を軸に子どもが持つ

権利を条例として作成するための協議が始まります。

## ★住友重機が旧浦賀ドック南半分の跡地2.7haを市に寄附

京急浦賀駅前の旧浦賀ドックの跡地利用については、1996年に操業が停止されて以来、浦賀地区だけでなく、横須賀市民の多くが関心を持ってきた場所でもあります。12月11日、現在の持ち主である住友重機工業株式会社が横須賀市にその用地の南半分(旧浦賀警察の前のエリア)を寄附するとの提案が発表されました。返還されるエリアは、歴史的価値が高いレンガドックの周辺部の2.7haに及びます。2021年3月末を目途に寄附締結及び契約などの手続きが予定されています。

横須賀市長は、「ドック跡地は歴史のある場所、活用については、地元の意見を聞きながら、庁内で検討を進める。」との意向を示しています。しかし、造船業の跡地であり、操業時の影響による土壌の汚染(重金属や薬物など)が想定され、開発に際しては、乗り越えていかなければならない課題も大きいようです。

